

(3) アクションプラン

	アクションプラン1	アクションプラン2
重点課題	確かな学力の育成 (進んで学び、表現する子供)	豊かな心の育成 (温かく、思いやる子供)
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して「対話タイム」を継続したことによって、話を聞く意識や態度を向上させるとともに、友達に思いや考えを伝えようと声の大きさや速さに気を付けながら話すことができたことと捉えている子供が多くいた。一方、理由等を踏まえて詳しく話したり、相手に質問したりすることができたことと捉えている子供は少なかったため、「話型を有効に活用する」「話す前に考えを整理する」等、指導を行った。子供たちの表現力をさらに高めるための手立てを考えていきたい。 ・年間を通して「ほかほかあいさつの木」を掲示し、子供たちが自分の挨拶や友達の挨拶の仕方について振り返り、カードを貼っていった。友達のよいところを見付け、メッセージを送り合ったことで、自分も気持ちのよい挨拶をしようと意欲を高めることができた。一方、挨拶が大切な理由をあまり考えていなかったり、挨拶することを恥ずかしがったりする子供もおり、進んで挨拶する習慣を付けていく必要がある。 	
具体的な達成目標 (数値目標)	友達の話をよく聞き、自分の思いや考えを分かりやすく話すことができる。 (80%以上) (児童自己評価・保護者評価：4段階評価のA・B・C・D評価)	相手の気持ちを考えた言葉がけや行動をすることができる。 (80%以上) (児童自己評価・保護者評価：4段階評価のA・B・C・D評価)
行動Ⅰ (方策)	<方策1> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の話を聞く態度を向上できるよう、「聞き方表」を教室に掲示し、対話タイムや授業でのペア・グループ学習で活用するとともに自分の態度を振り返る機会を確保する。 <方策2> <ul style="list-style-type: none"> ・思いや考えを分かりやすく伝えられるよう、発達段階に応じた「話型」を掲示し、その言葉を生かして話す機会を確保する。 	<方策1> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが主体となって挨拶運動を進めることができるよう、代表委員会が方策を考え、継続して実践・振り返りを行う。 <方策2> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考えた行動や言葉遣いができるよう、互いに認め合う機会を日常的に設定する。また、「ほかほかの木」の掲示や「ほかほか週間」の設定によって実践意欲を高める。